

## 令和6年度学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

#### (1) 協議会名

令和6年度東京都立松が谷高等学校学校運営連絡協議会

#### (2) 事務局の構成

副校長、事務局長（総務情報主任）、記録（教務主任） 計3名

#### (3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、総務情報主任  
計7名

#### (4) 協議委員の構成

近隣中学校長2名、学校医、大学名誉教授、近隣地域代表、同窓会長、PTA会長  
計7名

### 2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

#### (1) 学校運営連絡協議会

第1回 令和6年6月26日（水）午後3時30分～午後4時30分

出席者：内部委員7名、協議委員4名

内 容：協議委員委嘱、評価委員の選出、  
令和5年度学校経営報告、令和6年度学校経営計画について  
本校の現状と課題（各分掌）、その他意見交換

第2回 令和6年10月16日（水）午後3時30分～午後4時30分

出席者：内部委員7名、協議委員6名

内 容：本校の現状と課題（各分掌）、フィリピン海外研修について  
学校評価アンケート案の検討、その他意見交換

第3回 令和7年2月5日（水）午後3時45分～午後4時45分

出席者：内部委員7名、協議委員5名

内 容：本校の現状と課題（各分掌）、学校評価アンケートの報告、  
その他意見交換

#### (2) 評価委員会

第1回 令和6年10月16日（水）午後3時00分～午後3時30分

出席者：内部委員1名、評価委員2名

内 容：今年度の学校評価アンケート案の検討（全体構成、各設問の検討等）、  
アンケート配布・回収方法の検討

第2回 令和7年2月5日（水）午後3時15分～午後3時45分

出席者：内部委員1名、評価委員2名

内 容：学校評価アンケートの集計結果および分析の報告（原案）の提案、  
評価委員による分析内容の確認

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

#### (1) 評価の観点

「学校への理解」「学校生活満足」「学習の意欲」「学校の実践」の観点で評価する。

#### (2) アンケート調査の実施時期、対象、規模

・実施時期：令和6年12月～令和7年1月

|        |        |          |        |                |
|--------|--------|----------|--------|----------------|
| ・対象、規模 | 生徒     | 対象：1021人 | 回収：740 | 回収率：72.5%      |
|        | 保護者    | 対象：711人  | 回収：93  | 回収率：13.1%      |
|        | 教職員    | 対象：57人   | 回収：39  | 回収率：68.4%      |
|        | 近隣地域住民 | 対象：不特定   | 回収：22  | 回収率：44.9%（前年比） |
|        | 近隣中学教員 | 対象：不特定   | 回収：7   | 回収率：14.6%（前年比） |

### (3) 主な評価項目

学校運営、生徒の意欲、保護者との連携、地域との連携、広報活動、学習指導、進路指導、生活指導、部活動、相談活動、健康・安全、施設・設備、ライフ・ワーク・バランス 等

### (4) 結果の概要と分析

- ・学校生活全般については、生徒・保護者ともに満足度が高い。昨年度から質問項目に入れた「意欲向上」についても、特に生徒からの肯定的評価が9%増え、生徒・保護者ともに80%を超えた。
- ・外部からの印象は、肯定的な意見が多く、特に中学教員からの肯定的評価が17%増加した。校則・生活指導、規範意識についても、中学教員や地域からの肯定的評価が10%以上増加し、中学校や地域からの評判は上がってきていると考えられる。
- ・英語教育の充実については、生徒や保護者は変化なしであったが、外国語コースについては地域での認知が低かったため、地域への広報活動が必要である。
- ・授業満足は、生徒の肯定的評価が9%増えたが、教職員が「工夫や改善に取り組んでいる」と考えているよりも、生徒・保護者の評価が低い。
- ・補習・講習の充実については、生徒・保護者の肯定的評価が10%以上増加したが、教員は否定的評価が増えた。補習・講習にはさらなる工夫や改善が必要と考えていると思われる。
- ・教育相談の効果や対応については、教職員の肯定的評価が90%以上であるのに対し、生徒・保護者の評価が低い傾向は変わらないが、生徒・保護者ともに肯定的評価が80%は超えている。スクールカウンセラーの効果的な活用も含め、より一層、教職員全体の相談力を上げていくことが必要だと考えられる。
- ・進路指導満足については、生徒の肯定的評価は90%以上となったが、保護者には変化がなく、三者面談の効果については、保護者の肯定的評価が2%ではあるが下がった。三者面談などを計画的に実施し、データに基づいた進路指導を充実させていくことで、生徒の希望進路の実現につなげたい。
- ・教育活動PRについても、中学校員からの肯定的評価が20%ほど増加し、広報活動の効果があったと考えられる。
- ・部活動満足は、教職員、生徒、保護者の肯定的評価はおおむね変化がないが、中学教員の肯定的評価が29%増加した。
- ・防災教育については、生徒も教職員も肯定的評価が10%ほど増加した。  
今後も、様々な場面を想定した防災訓練が必要だと考える。
- ・図書館利用と読書推進については、肯定的評価におおむね変化はない。
- ・体罰防止・いじめ防止に関しては、生徒・保護者・教職員ともに90%以上が肯定的回答で、おおむね変化はない。  
今後とも、アンケートや聞き取りなどに加え、日常から生徒の様子を注意深く見て、対話をし、対応に努める必要があると考える。
- ・働き方改革認知・在校時間短縮については、どちらも否定的評価が増加した。  
業務効率化は変化がないので、効率化だけでなく業務分担の工夫や全体的な業務の削減が必要だと考える。

## 4 学校運営連絡協議会の成果と課題

### (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・素直で挨拶ができる生徒が多く、教員と生徒・生徒同士の関係も良好で、服装も落ち着いてきていることが分かった。
- ・学校の雰囲気も明るく見え、学校行事も盛んであり、英語教育の成果も上がってきていることがわかった。

### (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・地域住民、近隣中学校からは、地域清掃やイベントなどの地域活動への参加を期待されていることから、さらなる地域連携を図る必要がある。

- ・情報スキルを適切に扱えないと現代社会で生きていくのが困難であることから、教職員をはじめ生徒の情報リテラシーや情報教育の充実を図る必要がある。

## 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

### (1) 学校運営

- ・「やればできる」というスローガンのもと、生徒の自己肯定感を育むことができるよう、全教職員が様々な場面において意欲向上を意識した指導を推進する。
- ・地域行事への参加、小・中学校との合同活動、ボランティア活動など、地域に貢献できる活動を推進する。
- ・分掌主任の役割を明確にし、校務分掌の活性化を図り、組織的な教育活動を推進する。
- ・業務の効率化を図り、教職員のライフ・ワーク・バランスを推進する。

### (2) 学習活動

- ・「確かな学力」と「自ら課題を見つけ解決する力」を身に付けることができるよう、授業の工夫・改善を図る。
- ・数学と英語における習熟度別学習を継続し、全教科で言語力向上を図る。
- ・各教科、学年、家庭で連携し、家庭学習の習慣を身に付けさせるとともに、自学自習体制の支援を推進する。

### (3) 進路指導

- ・生徒が希望する進路実現のために、進路指導部を中心に模試データ等の分析、個々の生徒のケース会議、データに基づいた進路面談をより一層、推進する。
- ・「総合的な探究の時間」を計画的に実施し、自己の進路につながる学問的または職業的な課題を自ら設定して解決する力を身につけさせる。一般選抜だけでなく、総合型選抜や学校推薦型選抜を希望する生徒に向けても充実した指導体制を構築する。
- ・進路への意識を高めるため、講演会やガイダンスの他、上級学校の模擬授業や現役大学生との交流、本校卒業生との交流など、様々な形態の指導を推進する。

### (4) 生活指導

- ・自主・自律の精神を育てるため、自己管理能力の向上、社会の規範意識の育成、マナーの育成について、保護者とも連携した指導を推進する。
- ・校則や授業規範の遵守に向けて、全職員による指導を推進する。
- ・今後の社会を支え活躍する生徒を育てるために、可能な限り地域と連携した活動の中で、自主性や協調性、社会貢献の意識を育てる。

### (5) 健康・安全

- ・生命を尊重し、自他を大切に作る心・態度を育てる教育を行うとともに、日常の生活の様々な場面において、環境教育・健康教育・安全教育を行う。
- ・いじめや体罰、友人関係のトラブル等による生徒の精神面での健康課題を早期発見し、対応できるように、スクールカウンセラーも含め教育相談体制を充実させる。
- ・防災訓練等の充実により、防災に対する意識を向上させ、地域貢献できる力を養う。

## 6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

### (1) 協議委員の人数：7名

### (2) 協議委員へのアンケート結果

「学校運営連絡協議会で様々な学校の現状・課題について協議することにより『学校がよくなった』と考えるか」という質問に対し、「そう思う」という回答が87.5%だった。

| そう思う | 多少<br>そう思う | どちらとも<br>言えない | あまりそう<br>思わない | そう<br>思わない | わからない | 無回答 |
|------|------------|---------------|---------------|------------|-------|-----|
| 6    |            |               |               |            | 1     |     |

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

(1) 参加実績

職員会議 0 回、企画調整会議 0 回

(2) 成果

参加実績がないため、特になし

8 その他

・学校評価アンケートの回収方法を、紙による様式から電子による様式に変更した。回答・回収・分析作業が容易になったものの、依然として回収率は低く、回収率を上げるため、実施時期や実施方法等について検討・工夫する必要がある。